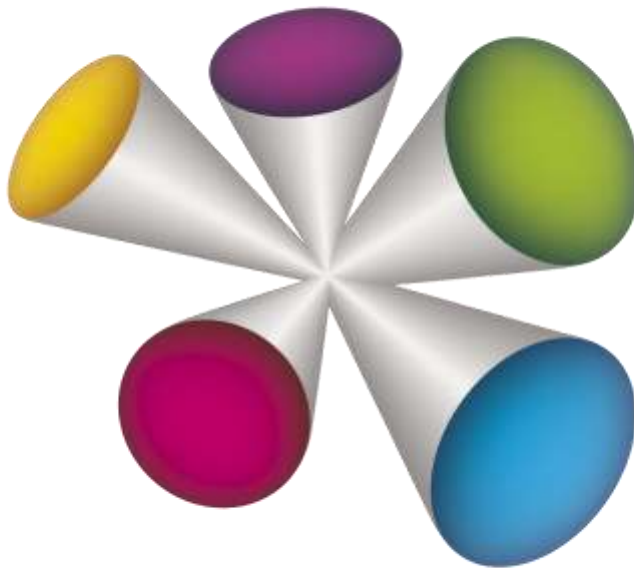


# 第3四半期連結決算説明

第29期(2012年3月期)

株式会社ワコム  
(東証1部:6727)



# 目次

スライドページ

- P 3 – 5 第3四半期決算概況
- P 6 -10 損益および販売管理費
- P11-15 事業ハイライト
- P16-17 製品ライン別売上高
- P18-20 所在地別売上高
- P21-22 貸借対照表およびキャッシュフロー
- P23-26 当期の基本方針と主要施策
- P27-30 当期損益業績予想
- P31-34 配当金見込みおよび自己株式取得
- P35-36 中期経営計画
- P37-39 ブランディング
- P40 本資料取扱い上の注意点

# 第3四半期(2011年4-12月期)決算概況

## 事業環境

- 米国経済が底堅く推移した一方、欧州債務問題による信用不安は拡大、新興国の成長拡大ペースも鈍化。為替は対ドル・対ユーロで円独歩高の様相。
- 東日本大震災によるサプライチェーン混乱は第1四半期で収束、国内需要への影響も限定的にとどまる。さらに、タイ洪水災害が発生するも、継続的な事業リスク管理によりXmas商戦に影響なし。
- IT分野はスマートフォンやタブレット型情報端末市場が急成長、PCメーカーや携帯端末メーカーの製品ライン拡充が進展。
- 当社事業では、新たに電子サイン認証が成長分野となり、さらにスマートフォンやタブレット型情報端末でのペン入力のニーズも急拡大。

# 第3四半期(2011年4-12月期)決算概況

## 業績概況

- 当第3四半期(4-12月期)は、タブレット事業におけるプロ向け液晶タブレットやiPad向けBamboo Stylusの好調と、コンポーネント事業におけるスマートフォン向けの急拡大により、過去最高の連結売上高を達成、営業利益も増益を確保。

(10-12月期は、タブレット事業が日欧で過去最高の売上高を更新、営業利益も過去最高の2007年同期に次ぐ水準を達成。)

- 営業外では、第1四半期に特別損失として厚生年金基金脱退の特別掛金を計上。
- 通期業績予想は、為替相場の円高傾向を見込むも、コンポーネント事業の増勢を反映し、売上高予想を上方修正。

# 第3四半期(2011年4-12月期)決算概況

## 連結財務サマリー

	当期実績	前年同期比	
売上高	277.9億円	+10.1%	<b>売上高</b> 第3四半期(4-12月期)、 10-12月期ともに最高値
営業利益	27.3億円	+4.3%	
経常利益	26.5億円	-5.4%	<b>特損計上</b> 厚生年金基金脱退特損 131百万円(第1四半期)
税引前当期純利益	24.9億円	-8.6%	
当期純利益	16.4億円	-5.4%	
	当期実績	前年同期実績	
1株当たり純利益	4,109円	4,320円	<b>自己株式取得</b> 5,000株(439百万円)
1株当たり純資産	44,710円	44,573円	

# 連結損益計算書

(単位:百万円)

	第28期 3Q	第29期 3Q	対前年同期比較	
	10年4-12月期	11年4-12月期	増減額	増減率
売上高	25,232	27,786	2,554	10.1%
売上総利益	11,913	12,722	809	6.8%
売上総利益率	47.2%	45.8%		
営業利益	2,616	2,729	112	4.3%
営業利益率	10.4%	9.8%		
経常利益	2,797	2,646	△ 151	△5.4%
当期純利益	1,736	1,643	△ 93	△5.4%

- 3Q平均為替レート：第28期3Q 1ドル 86.86円、1ユーロ 113.49円  
第29期3Q 1ドル 79.17円、1ユーロ 111.32円

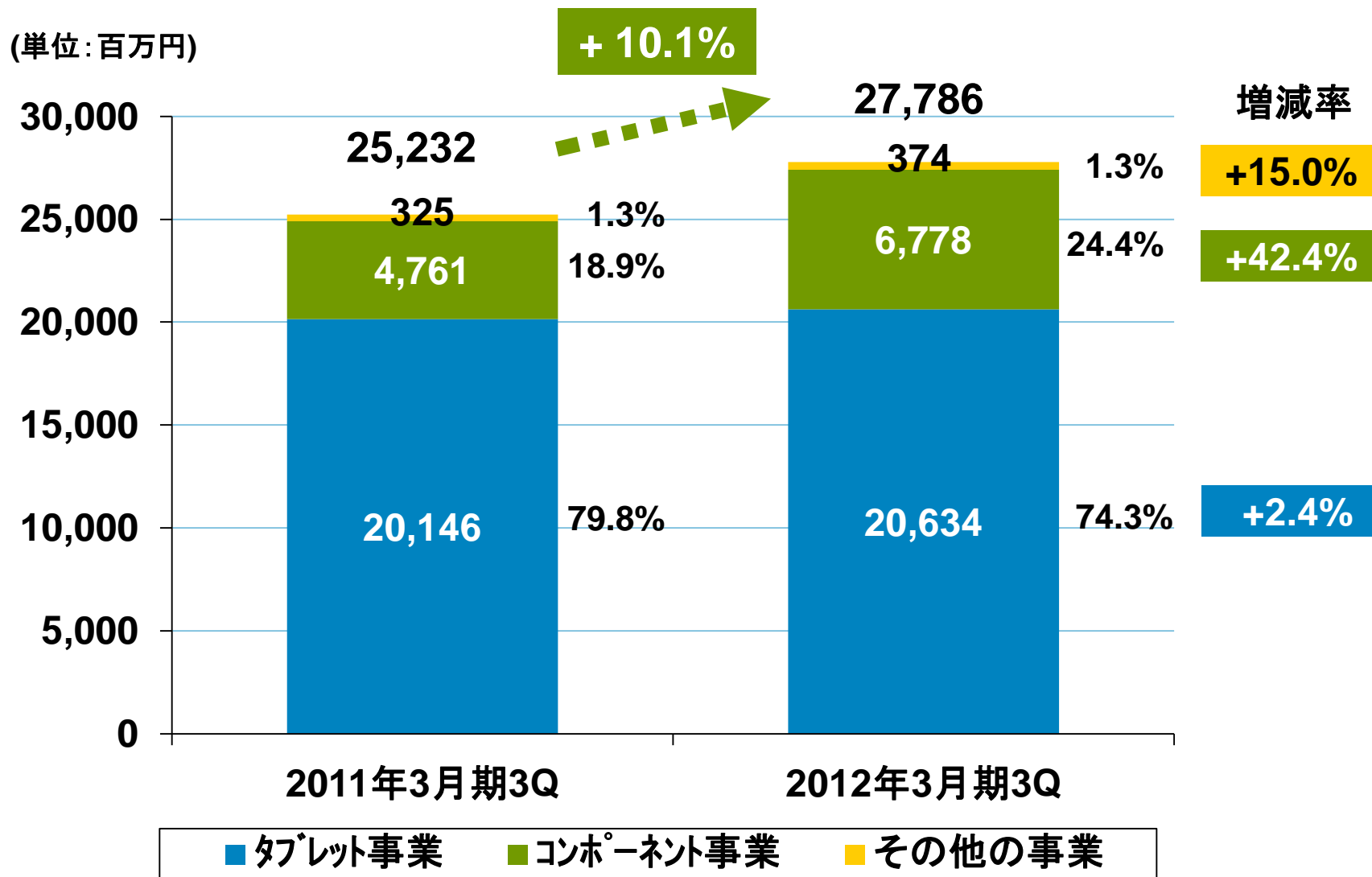
為替変動影響(円高)：売上高 14.7億円減  
営業利益 0.6億円減

# 連結事業別セグメント

(単位:百万円)

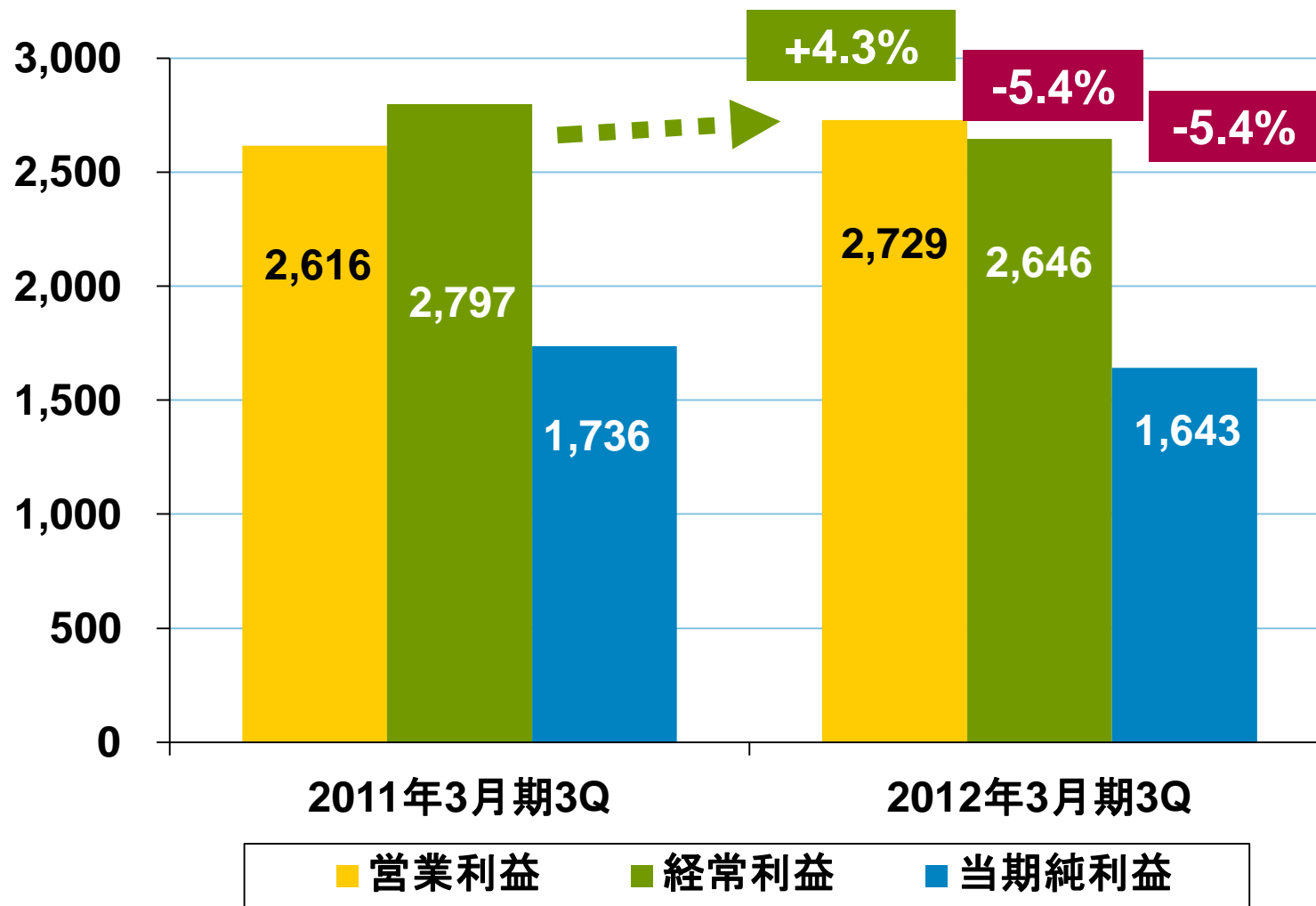
	第28期 3Q	第29期 3Q	対前年同期比較	
	10年4-12月期	11年4-12月期	増減額	増減率
売上高	25,232	27,786	2,554	10.1%
タブレット事業	20,146	20,634	488	2.4%
コンポーネント事業	4,761	6,778	2,017	42.4%
その他の事業	325	374	49	15.0%
営業利益	2,616	2,729	112	4.3%
タブレット事業	4,391	3,730	△661	△15.1%
コンポーネント事業	△136	559	695	-
その他の事業	△159	68	227	-
コーポレート他	△1,479	△1,627	△148	10.0%
営業利益率	10.4%	9.8%		

# 連結売上高比較



# 連結利益比較

(単位:百万円)



# 販管費及び一般管理費の主な内訳

(単位:百万円)

	第28期 3Q	第29期 3Q	対前年同期比較	
	10年4-12月期	11年4-12月期	増減額	増減率
人件費	3,474	3,816	341	9.8%
研究開発費	919	1,237	319	34.7%
販促・広告宣伝費	1,517	1,565	48	3.2%
その他	3,387	3,376	△11	△0.3%
販管費合計	9,297	9,994	697	7.5%
売上高販管費率	36.8%	36.0%		

## 主要増加項目

増加 : 海外現法の人員増による人件費増(連結ベースの従業員数 3月末 747名  
→ 12月末770名)、賞与引当金の増加、新製品群に伴う研究開発費など

# 事業ハイライト -1

## タブレット事業

+2.4%

### プロフェッショナル製品

+4.1%

### ペンタブレット -7.8%

- Intuos4が、発売から3年目であることや円高と震災後の国内設備投資停滞を受けて減少。
- 紙とペンを再現するデジタルスケッチペン Inklingが好評。米国TIME誌のThe 50 Best Inventionsに選出。

### 液晶タブレット +35.8%

- 9月に最上位機種となるCintiq 24HDを発売、プロ待望の表現力と操作性を備えたフラッグシップモデルとして好調なスタート。
- Cintiq 21UXは、震災による液晶供給問題を上期に解消させ、下期もグローバルに旺盛な需要が継続。

intuos<sub>4</sub>



Inkling™



Cintiq<sub>24HD</sub>  
Interactive pen display



# 事業ハイライト -2

## コンシューマ製品

+10.4%

- 新分野としてリリースしたiPad向けスタイラスペンBamboo Stylusの販売が好調。各国のメディアからも高い評価を受ける。
- iPad用手書きアプリBamboo Paperは高機能版を有償化で展開。Mac & PC向けも提供開始。
- 9月には、新たに第3世代製品を投入、10本指対応にマルチタッチ機能が進化。各種ソフトと組み合わせてグローバルに50モデル以上を展開。

BAMBOO® STYLUS



BAMBOO® PAPER



BAMBOO®

PEN & TOUCH



# 事業ハイライト -3

## ビジネス製品

-22.7%

- 北米市場において一部OEM製品の供給が終了し、前期比で大幅に減少。
- 電子サイン向け製品が前期比で2倍以上。先行する欧州市場に続いて、北米や国内市場でも導入プロジェクトが立ち上がり始める。(導入事例) ららぽーと(日)、H&R Block(米)
- 国内市場は、震災の影響を受けながらも医療分野の需要が拡大。アジア地域では、電子サイン向けなどが拡大。

## サインタブレット STUシリーズ



## DT / PLシリーズ



# 事業ハイライト -4

## コンポーネント事業

+42.4%

- Samsung社がGalaxy Noteにペン技術を採用、下期より量産開始、需要が急拡大し業績に貢献。
- タブレットPC向けの需要が継続的に増加、e-BookなどAndroid OS機種向け売上も拡大。
- Windows 8、Android 4.0など次世代OS搭載のタブレット型情報端末向けに次期ICコントローラーを開発。
- Android 4.0 OSがペン機能を標準APIサポート

## Android OSタブレット型 情報端末 採用例



## Windows OS タブレットPC 採用例



# 事業ハイライト -5

## その他の事業

+15.0%

### 電子設計用CAD製品他

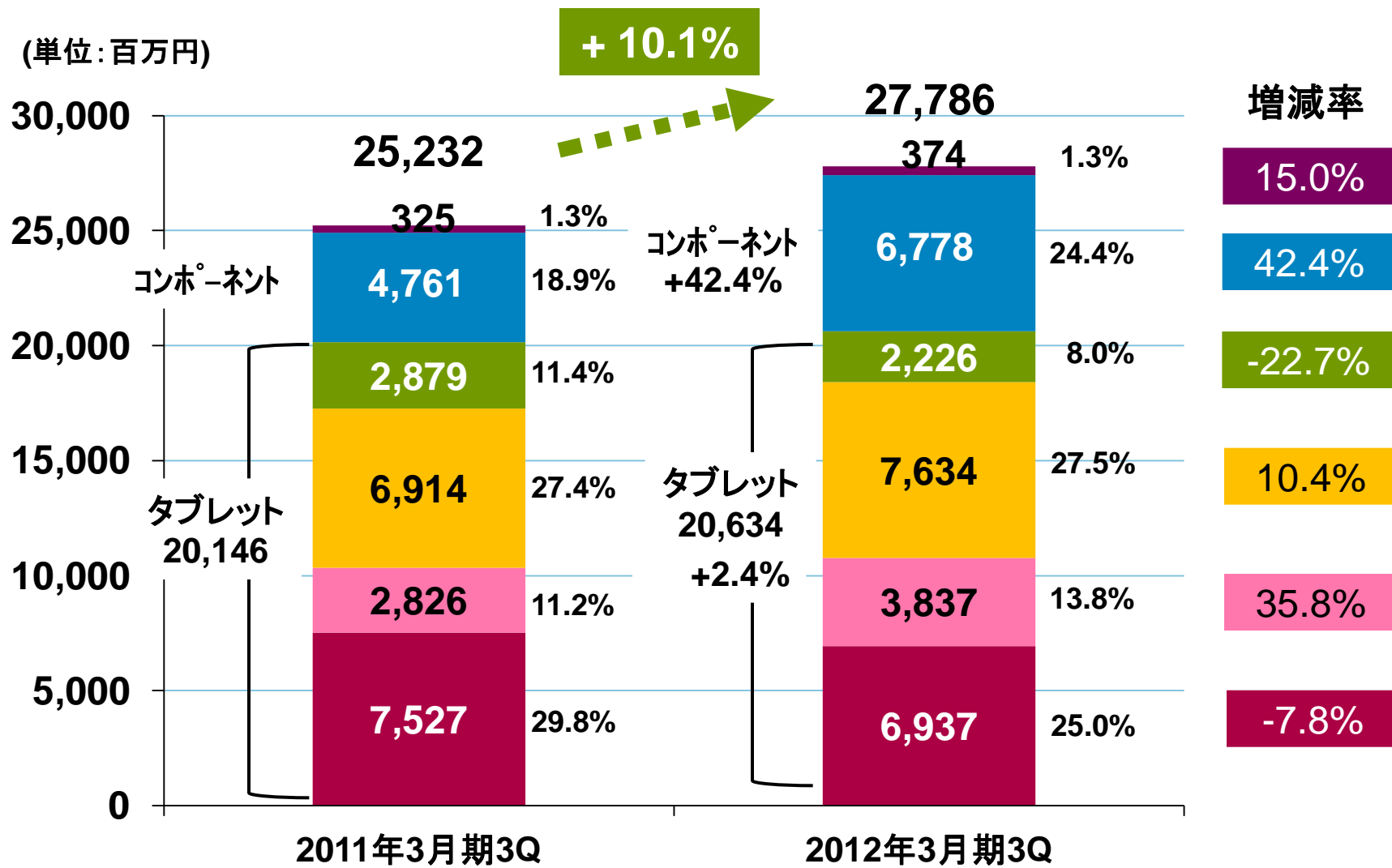
- 主力ソフトウェア製品 ECAD DIOの販売が順調。装置系メーカー向けのハーネス機能も高い評価を受ける。
- 9月にはハーネス機能を強化したECAD DIO 2012をリリース。



## 管理部門

- グローバルERPシステムが8月より順調に稼動。
- 埼玉県工業団地厚生年金基金(総合設立型)から、財務面のリスクを払拭するため脱退を決議。第1四半期に脱退時特別掛金約131百万円を特別損失として計上。
- 国際的な会計処理や新ERPシステム稼動を鑑み、出荷基準から顧客納品時点での収益認識に会計基準を変更。  
(遡及適用の影響額:前年同期売上高 +4.1百万円、営業利益 +2.4百万円等)

# 製品ライン別売上高

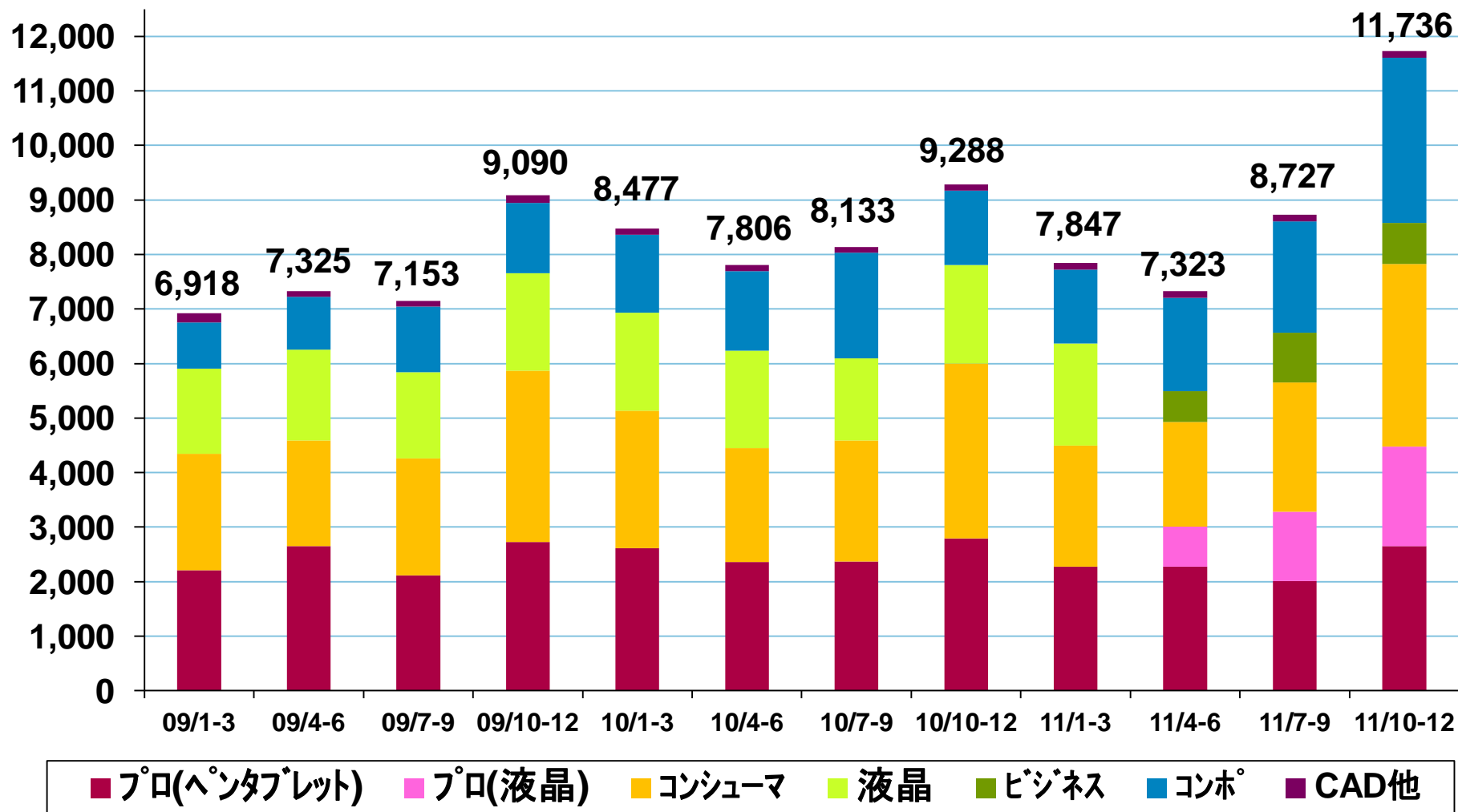


■ プロ (ペンタブレット) ■ プロ (液晶タブレット) ■ コンシューマ ■ ビジネス ■ コンポーネント ■ CAD他

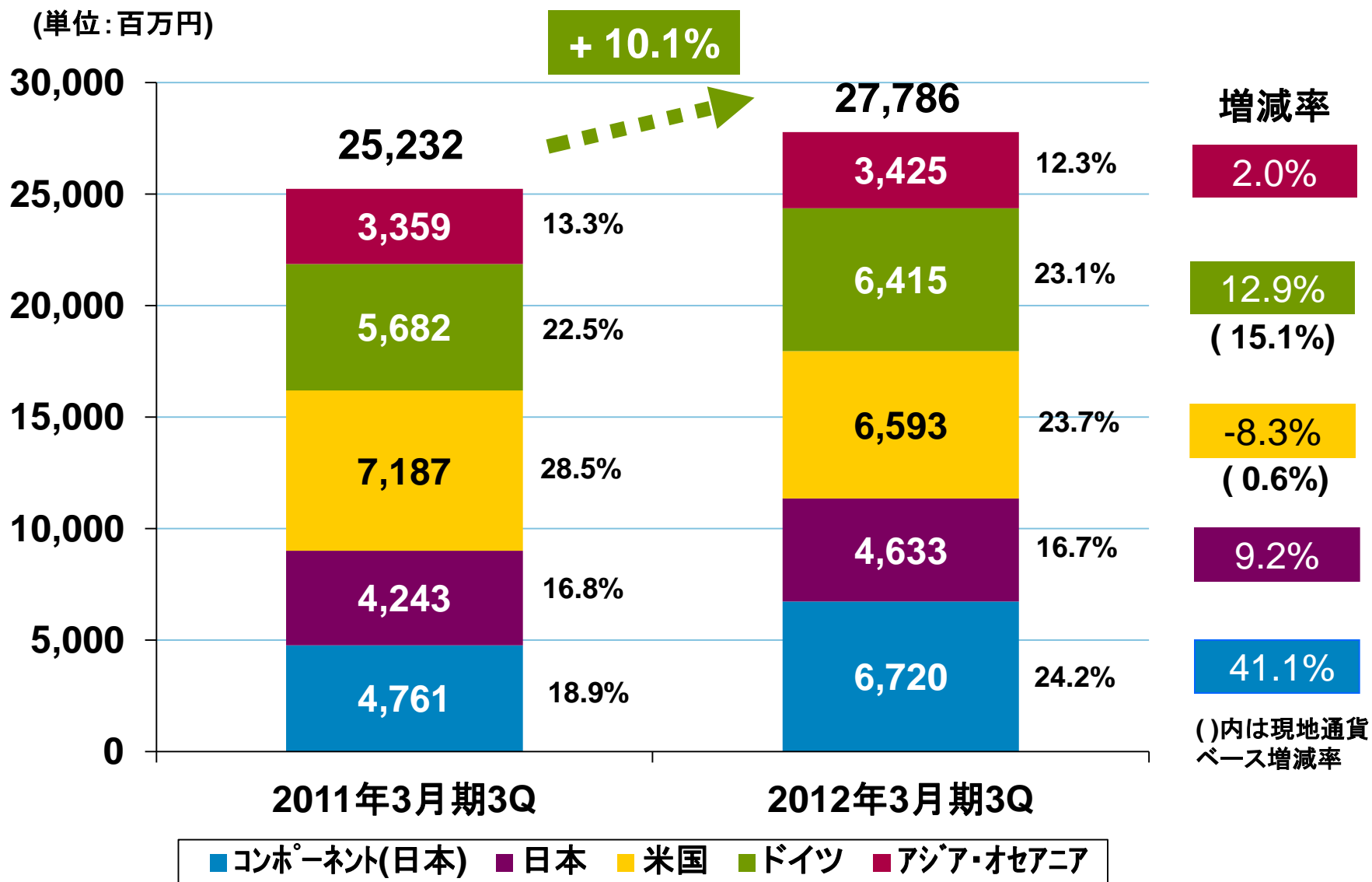
# 製品ライン別売上高推移

(単位:百万円)

2011/4-6以降、製品ラインを用途別に「プロ(ペンタブレット)」「プロ(液晶)」「コンシューマ」「ビジネス」「コンホ°」「CAD他」とし、以前の「液晶」のうちCintiqシリーズは「プロ(液晶)」、コンシューマの一部は「ビジネス」に変更しています。



# 所在地別売上高



# 所在地別売上高

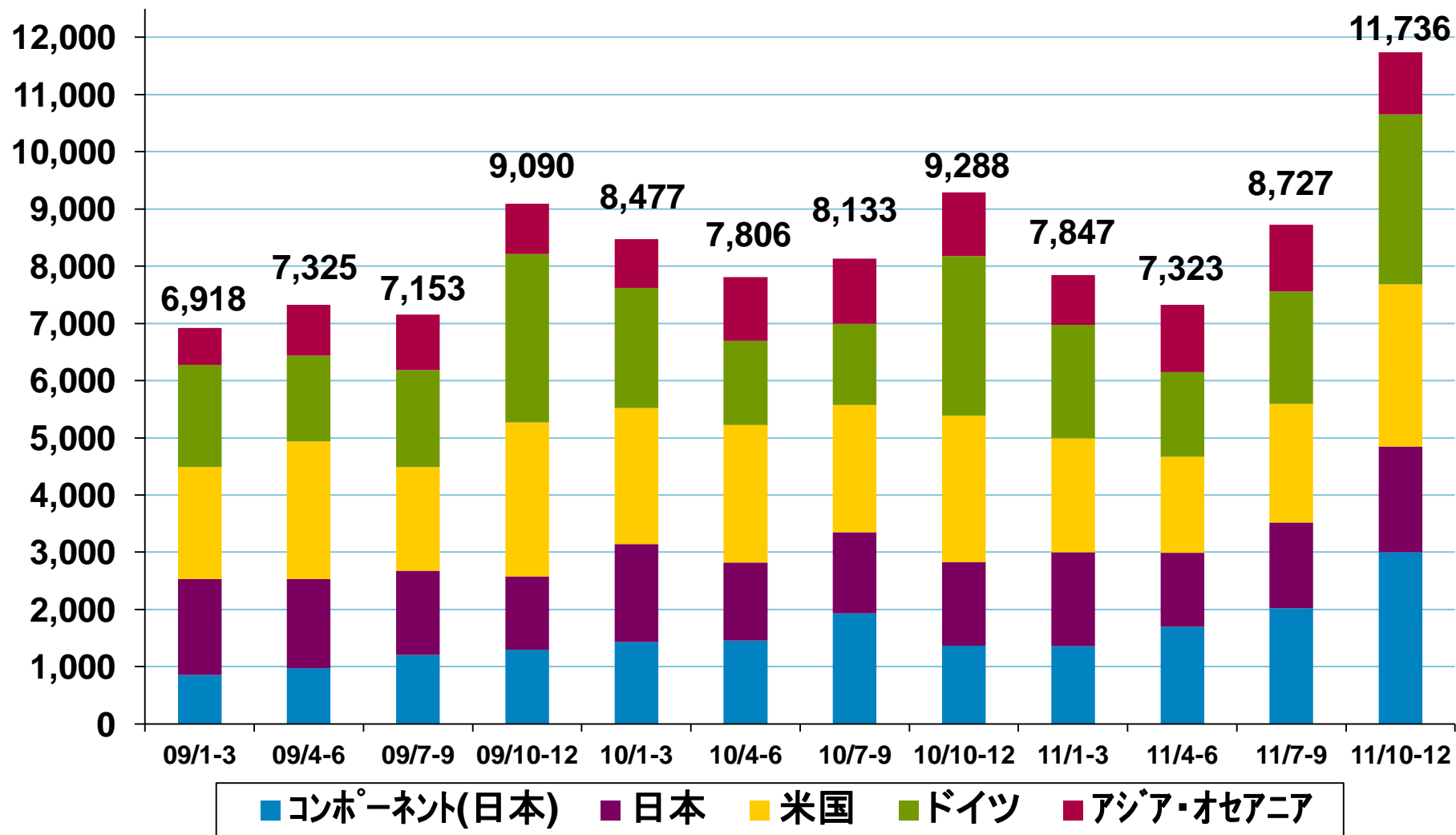
現地通貨ベースの売上高増減率  
(2012年3月期3Q 前年同期比)

- 米国(USDドル) 0.6%
- 欧州(ユーロ) 15.1%
- 中国(中国元) 5.2%
- 韓国(韓国ウォン) 1.6%
- 豪州(豪ドル) 3.9%
- シンガポール(USDドル) 22.0%
- 香港(USDドル) - 0.8%

一部OEM供給終了の影響  
(影響除く場合 約+20%)

# 所在地別売上高推移

(単位:百万円)



# 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	11年3月末	11年12月末	増減額
流動資産	20,950	23,233	2,284
固定資産	6,144	6,439	295
資産合計	27,094	29,672	2,578
流動負債	7,556	10,778	3,222
固定負債	1,056	1,042	△14
負債合計	8,612	11,820	3,208
少数株主持分	0	0	0
純資産合計	18,482	17,852	△630
負債純資産合計	27,094	29,672	2,578
自己資本比率	68.1%	59.9%	△8.2%
一株当たり純資産 (単位:円)	45,917	44,710	△1,207

資産 (単位:百万円)

- ・ 売上債権の増加 1,843
- ・ たな卸資産の増加 866
- ・ その他流動資産の増加 232  
(主な要因)  
新製品リリースやXmas商戦等
- ・ 投資有価証券の増加 166  
(主な要因)  
Twinwill社への出資等
- ・ 現預金の減少 △849  
(主な要因)  
配当金の支払い等

## 負債

- ・ 仕入債務の増加 2,313
- ・ 未払法人税等の増加 434

## 純資産

- ・ 利益剰余金の増加 437  
(3月末13,800 ⇒ 12月末14,237)
- ・ 自己株式取得 △439

# 連結キャッシュフロー

(単位:百万円)

	第28期 3Q	第29期 3Q	対前年 同期比較
	10年4-12 月期	11年4-12 月期	増減額
営業活動	△98	2,206	2,304
投資活動	△877	△1,083	△206
財務活動	△1,201	△1,627	△426
現金に係る 換算差額	△530	△346	184
現金増減額	△2,706	△849	1,856
現金期首残高	12,350	10,455	△1,895
現金期末残高	9,644	9,605	△39

## 営業活動

(単位:百万円)

- ・ 仕入債務の増加 2,610
- ・ 税金等調整前当期純利益 2,489
- ・ 減価償却費 738
- ・ その他流動負債の増加 560
- ・ 売上債権の増加 △2,234
- ・ たな卸資産の増加 △1,223
- ・ 法人税等の支払 △541

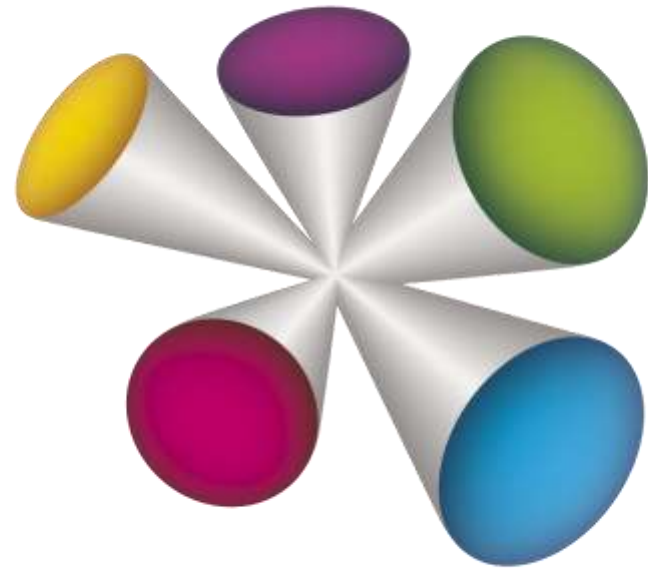
## 投資活動

- ・ 自社ソフトウェア取得 △630  
(グローバルERP等)
- ・ 有形固定資産取得 △311  
(金型等)
- ・ 投資有価証券の取得 △168  
(Twinwill社:タッチパネル製造委託先)

## 財務活動

- ・ 配当金支払額 △1,201
- ・ 自己株式の取得 △440

# 第29期(2012年3月期) 基本方針と主要施策



# 第29期(2012年3月期)の基本方針

## ● 事業環境

- 世界経済は回復基調にあるも不透明感が拡大  
新興地域が引き続き成長を牽引  
米国の緩やかな景気回復は継続、欧州信用不安は一進一退  
震災による国内景気減速は一時的にとどまる
- 成長エンジンは先進国から新興地域へ  
米欧の成長は鈍化、日本の震災影響は一時的だが低成長  
中国、インドは高成長を維持し、影響力も拡大
- スマートフォン・タブレット・電子書籍が成長を牽引  
iPad、Androidタブレットが成長を牽引、Windowsタブレットも増加  
Windows PCマーケットの成長回復はWindows 8以降  
Webアプリの性能が向上、タブレット型情報端末の業務用途への拡大  
マルチタッチが標準ユーザインターフェースに

# 第29期(2012年3月期)の基本方針

## ● 当社の基本戦略 -1

### ● 震災対応と事業リスク管理を継続

本社の復旧と改善、製造・SCM基盤の確保、節電対応など  
パートナーとの連携による製品供給の確保とSCMリスクの管理

### ● タブレット事業のグローバルリーダーシップ強化

プロフェッショナル市場への新製品の投入

コンシューマ市場への新製品投入

新興市場の拡大とブランド強化

タブレット型情報端末へのペン製品投入と市場拡大

セキュリティーソリューションの拡大

### ● コンポーネント事業の成長

スマートフォン、タブレット型情報端末分野への事業拡大

Windows PC市場での利用の継続的拡大

ペンとマルチタッチ技術の更なる革新とコスト競争力強化

# 第29期(2012年3月期)の基本方針

## ● 当社の基本戦略 -2

### ● 新興地域での成長加速

中国、インドなどの新興市場の拡大  
組織強化、人材育成と事業基盤の拡大

### ● 事業構造の変革と競争力の強化

管理部門のグローバル本社化  
グローバルブランディング活動の推進  
SCM・QA機能の現地化とODM活用の推進  
基礎技術開発の強化とアプリケーション開発能力の向上  
グローバルERPの実稼動(2011年8月完了)

# 連結損益業績予想の前提

- 市場動向は、2012年1月に実施した業績予想レビューに基づく。
- 国内の大規模余震の発生や、海外で起きる自然災害が部品供給に影響せず生産の支障とならない。
- 欧州債務問題が金融危機へと発展せず、パートナー各社にも大きな問題が発生しない。

# 連結損益業績予想の前提

- 為替想定レート的前提を変更（2012年1-3月期）

1USD =(期初)82.5円 → (4Q以降) 77円 (期中平均) 78.67円

1EUR =(期初) 120円 → (4Q以降)100円 (期中平均) 108.71円

- 為替感応度予想（通期12ヶ月）

中国元、韓国ウォン、豪ドルがドルリンクと想定

(単位:百万円)

通貨	USDル	ユーロ
感応度の単位	1円	1円
売上高	240	80
営業利益	0	60

※ 各通貨が1円の円高の場合はマイナス、円安の場合はプラス

# 連結損益予想

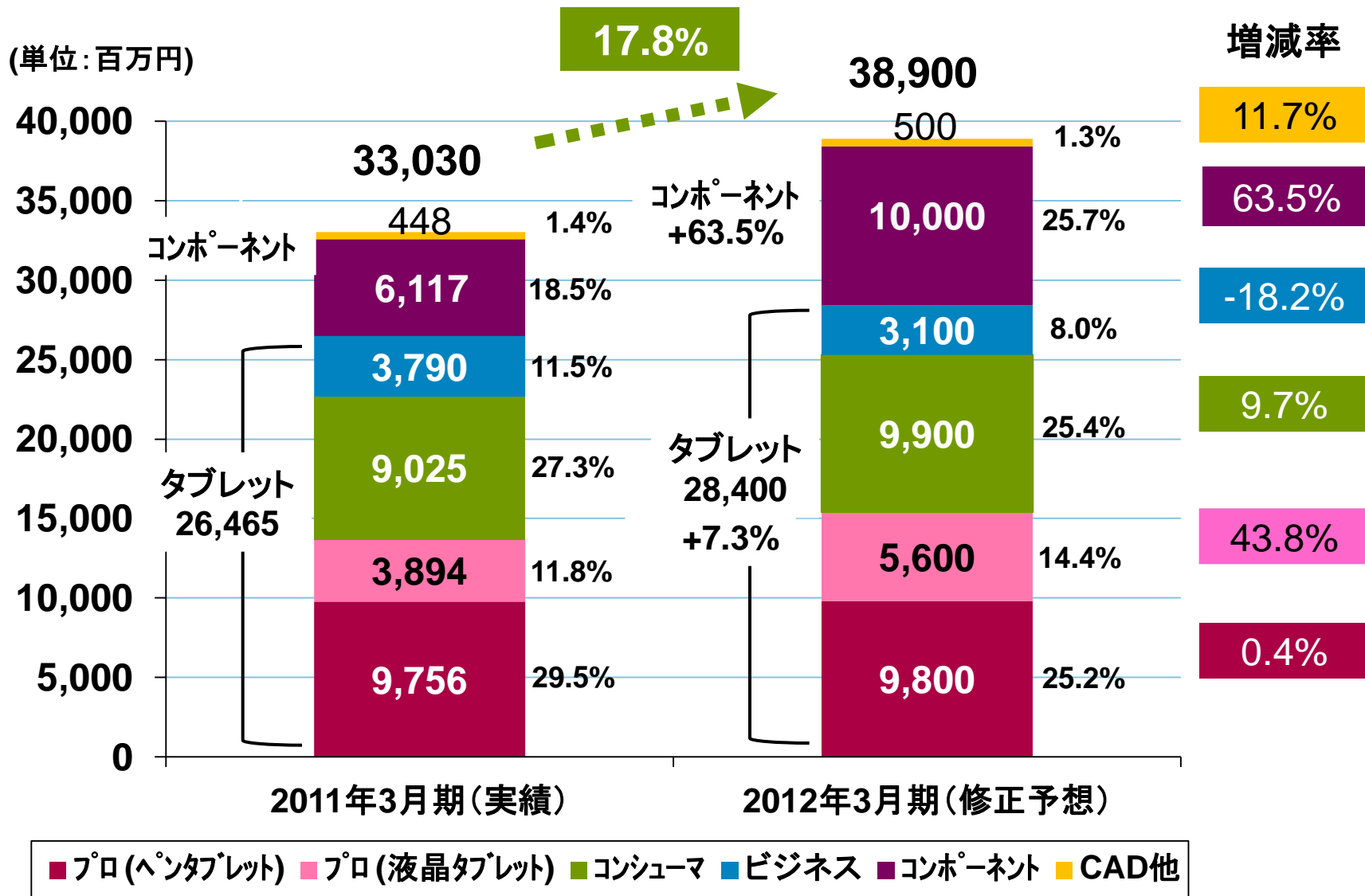
(単位:百万円)

	第28期(実績)		第29期(修正予想)		対前期比較
	2011年3月期		2012年3月期		増減率
売上高	33,030		38,900		17.8%
営業利益	3,252	9.8%	3,700	9.5%	13.8%
経常利益	3,363	10.2%	3,650	9.4%	8.5%
当期純利益	1,967	6.0%	2,340	6.0%	19.0%

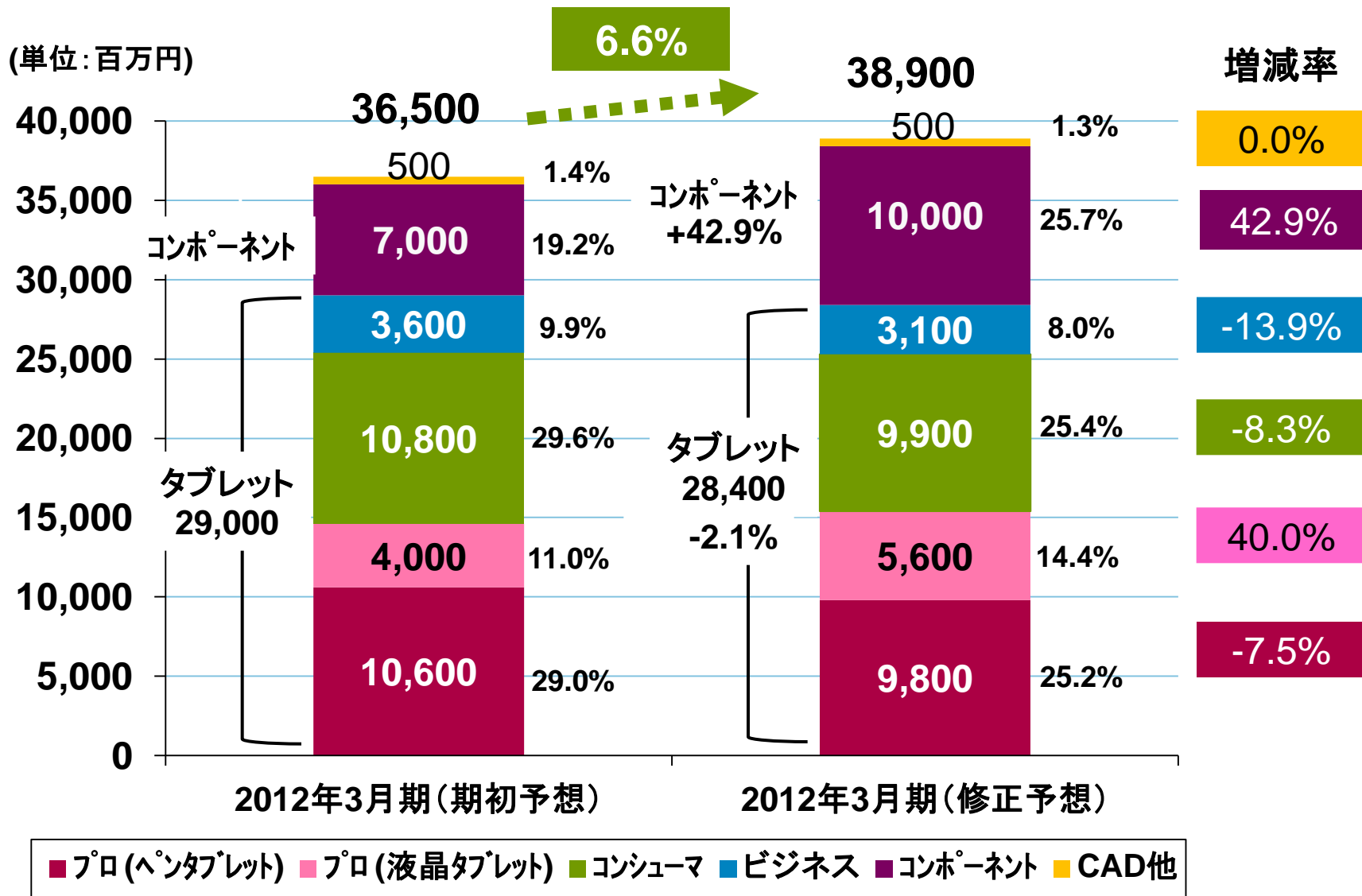
	第29期(期初予想)		第29期(修正予想)		対期初比較
	2012年3月期		2012年3月期		増減率
売上高	36,500		38,900		6.6%
営業利益	3,700	10.1%	3,700	9.5%	0.0%
経常利益	3,650	10.0%	3,650	9.4%	0.0%
当期純利益	2,340	6.4%	2,340	6.0%	0.0%

- ・ 売上高は、コンポーネント事業の拡大やタブレット事業の製品別見通し等を反映。
- ・ 利益は、製品ミックスの変化や円高を考慮して、期初予想を据え置き。

# 連結損益予想 セグメント別売上高(前期比)



# 連結損益予想 セグメント別売上高(期初比)



# 第29期(2012年3月期)配当金見込み

- **配当の基本方針**

- 将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続する
- 配当性向は連結ベースで30%以上を目標とし、継続的な向上を目指す

- **1株当たり配当金**

- 配当金 3,000円
- 配当性向 51.0%

2011年12月末時点 自己株式 25,000株控除後

# 自己株式の取得結果

## • 自己株式の取得

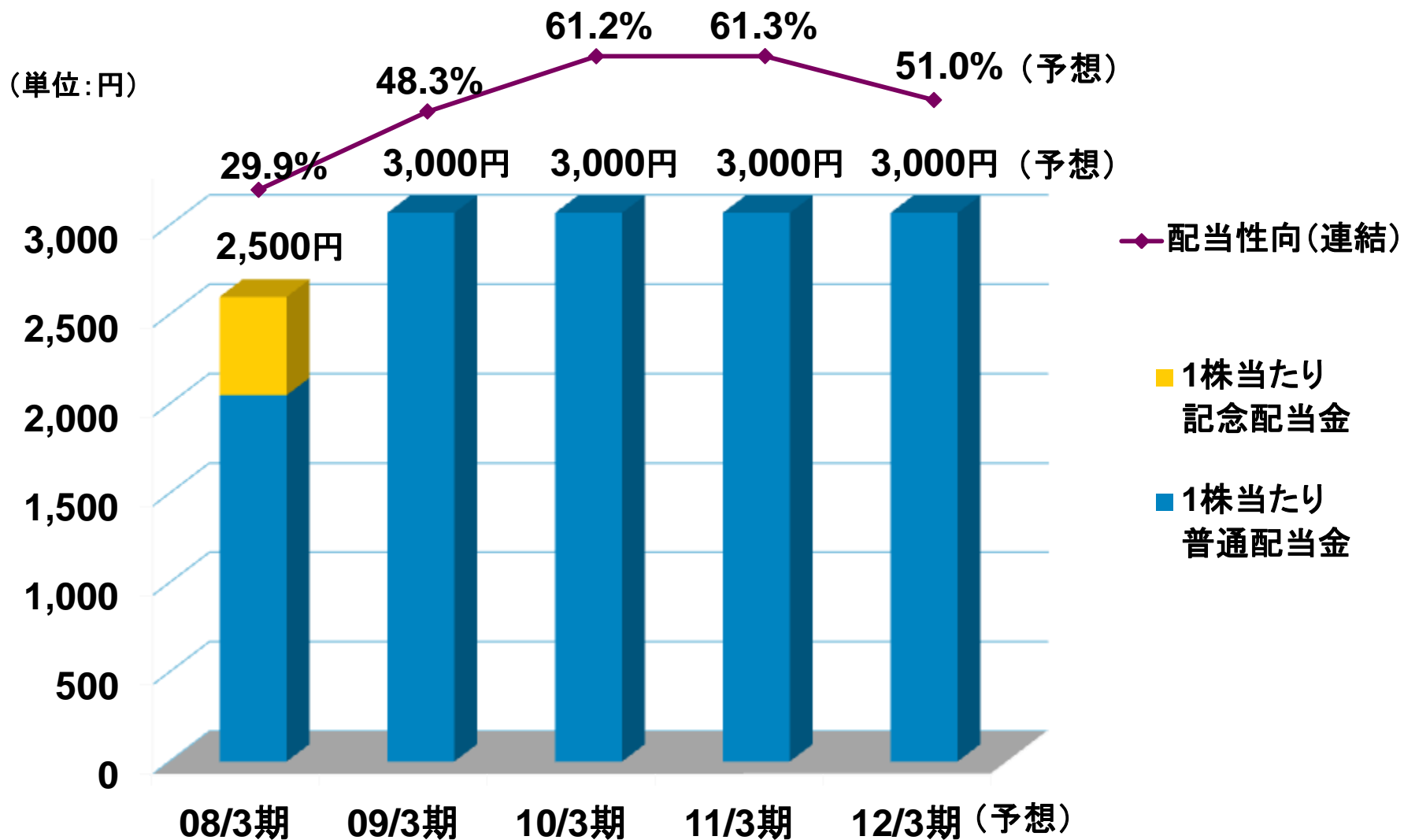
- 取得した株式の総数 5,000株  
発行済株式総数の割合 1.18% (2011年12月末時点)
- 取得価格の総額 4億3,876万円
- 取得した期間 2011年8 - 9月

## • 株主への総還元性向

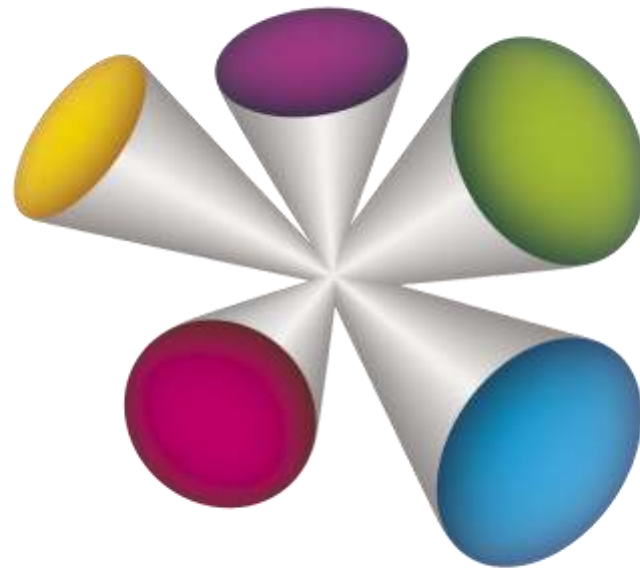
- 総還元性向 69.7% (2012年3月期通期予想)  
配当予想総額 11.9億円、自己株式の取得 4.4億円

※ 総還元性向: (予想配当総額 + 自己株式取得の総額) / 予想当期純利益

# 一株当たり配当金推移



# 中期経営計画について



# 中期経営計画 -WP1015

## WP1015: 財務目標

連結売上高: 1,000億円以上

連結営業利益率: 15%以上



2011年3月期の経営実績と事業環境の急速な変化、今般の大震災の影響等を勘案すると当初計画である2014年3月期での達成は難しく、同計画の見直しが必要。

当面は事業リスク管理を優先しつつ、売上げの成長と営業利益率の改善および年次計画の確実な達成を目指す。

# 新しいUIの時代へ

世界のどこでも  
だれにとっても  
シンプルで、直感的で  
分かりやすく、楽しく  
いつもつながっている



# Simple, Natural, Intuitive.

## Fun & Connected

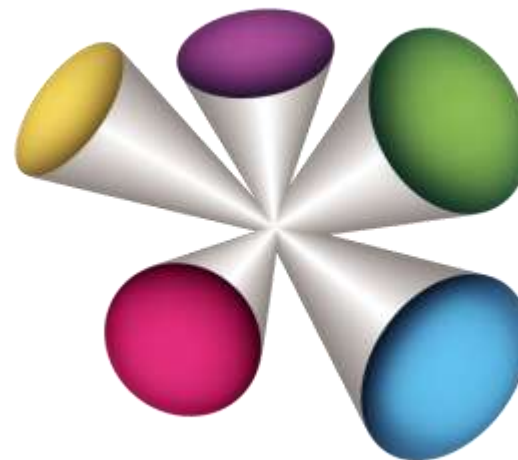


Open up.  
Sense more.



# 本資料のお取扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済や当社の関連する業界動向、新たな技術の進展などにより変動する事があります。従いまして、実際の業績などが本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。



株式会社ワコム 総合企画本部 IR室  
TEL : 03-5309-1525 FAX : 03-5309-1503  
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2  
ハーモニータワー21階